

令和7年度
芦北町立
佐敷小学校



重点目標
「佐小の伝統の上に学びを楽しみ、自らの未来に向けて考動するさしきっ子」
育てたい力：共感力 探究力 協働力

佐小だより

10月号
10月30日発行
文責：徳成

運動会お世話になりました

10月19日に実施しました運動会は、多くの保護者の皆様、地域の皆様にご声援をいただき、ありがとうございました。

前日の準備から、当日まで、天気が心配されましたが、雨が降ることはなく、時より日差しが指すほどの、暑いくらいの天候でした。

子供たちの様子はいかがだったでしょうか。一生懸命に頑張る姿は、私たちに感動を与えてくれました。また、表現運動の楽しそうな姿も印象的でした。これまでの学校生活で学んだことや、およそ1ヶ月間の練習の成果をご覧いただけたのではないかと思います。

赤白対抗の結果は、赤団の優勝に終わりましたが、両団とも、本当によく頑張っていました。特に、団長の木下歩さん（白団）、松原和葵さん（赤団）を中心とした応援の様子は素晴らしかったと思います。高学年の競技中に、高学年の先輩がいないにも関わらず、低学年の子供たちが、声をそろえて一生懸命応援する姿には、子供たちの力を感じました。

応援合戦…白団



応援合戦…赤団



カンボジア学校建設募金贈呈式

「カンボジアに学校を贈ろう」という思いにより取り組んだ佐敷小学校のチャリティバザーの収益金の贈呈式を、10月24日に佐敷小学校体育館で行いました。

贈呈式には、竹崎町長様、岩田教育長様をはじめ、芦北町国際交流協会の皆様、芦北町企画財政課の皆様にご来校いただきました。児童代表：6年生の宮本脩司さんから、竹崎町長様に募金の目録を贈呈しました。

今年は、102,474円の収益金を贈呈しました。

この取組は、今年で28回目となる佐敷小学校の伝統の取組の一つです。国際社会の情勢が複雑化している現在、子供たちにとって、特に意義のある取組ではないかと感じています。



贈呈の様子

「あいさつ」とは？

昔から、親や教師は「『あいさつ』をしなさい」といいます。令和の時代、AIの進化が目覚ましい現在でも変わっていないと思います。(ロボットも「あいさつ」をします)「『あいさつ』なんてしなくていい」と言う大人はあまりいないと思います。

では、子供たちは、この「あいさつ」をどのように捉えているのでしょうか。大きな声で「あいさつ」をする子供もいますし、そうではない子供もいます。

先日、全校朝会で、「そもそも『あいさつ』って、何だ？」という話をしました。

まず、下の4枚のスライドを使って、「あいさつ」の意味を確認しました。

あいさつは

あなたと
仲良くしたいです

という メッセージ



あいさつは

あなたを 人として
認めています

という メッセージ



あいさつは

周りを (明るく)
します

あいさつは

(お話) を
しやすくします

「あいさつ」は、「コミュニケーションの第一歩」であり、「相手を認識している」のメッセージであると思います。そして、「あいさつ」から「対話」が生まれ、「良好な人間関係」が築かれていくのではないかと思います。

「コミュニケーション」、「対話」、「人間関係」……。変化が激しい予測困難なこれからの時代を生きるために、一層重要なことだと感じています。

最後に、子供たちに下のようなことを尋ねました。子供たち自身が、自分の状況をどのように認識しているのかを尋ねました。自分の「あいさつ」について考えて欲しいと思いました。

あなたは、今、どの人？

①自分から あいさつをする人？

②あいさつをされたら
元気なあいさつを返す人？

あなたは、今、どの人？

③あいさつをされたら 小さな
声で あいさつを返すひと？

④あいさつをされてもあいさつを
しない人？
知らんぷりをする人？

自分の状況を客観的にみる「メタ認知」の力は、発達段階により変わりますが、私の予想よりも③や④を選んだ子供が多くみられました。

これからの時代を生き抜いていくための基本である「あいさつ」が、自然とできる佐敷小学校の子供たちに育って欲しいと願っています。